



思い出の ランドセルギフト

実行委員会だより



東京むかで・石巻広域・神戸ポート各ワイズメンズクラブ&有志のメンバー

■ わたしたちのミッション

公益財団法人ジョイセフを通じて、アフガニスタンの子どもたちの笑顔のために、ランドセルギフトに賛同し、普及・拡大に協力していく。

ジョイセフの主催するランドセルギフトに賛同し、子ども、母親へ思いを伝える。

<私たちの願い>

- ①日本での役割を終えたランドセルを贈りましょう。
- ②子どもの夢を育てたランドセルが、アフガニスタンの子どもへ届きます。
- ③子どもたちが大人と共にできる幸せの社会貢献。
- ④ワイズへの共感を広げ、ワイズの思いを社会へ伝えましょう。



<SDGsの観点>

- ・国際理解、国際交流、【16.平和と公正】
- ・若年層のボランティア体験（青少年健全育成）【10.人や国の不平等】
- ・物資のリサイクル【12.つくる責任、つかう責任】
- ・教育の機会均、【4.質の高い教育】
- ・支援先の男女間格差をなくす【5.ジェンダー平等】
- ・志を同じくする団体の支援（公益財団法人ジョイセフ）【17.パートナーシップ】

2. 前期からの活動

▼2021年7月 東京むかでクラブより「企画書」を東新部部長に提出。

▼2021年12月6日 思い出のランドセルギフト実行委員会準備会

・会の名称、推進母体、実行委員会構成員、組織名「思い出のランドセルギフト実行委員会」

▼2022年1月13日 第1回思い出のランドセルギフト実行委員会

- ・実行委員会事務局の役割と構成について
- ・実行委員会と東北ヘルプ、実行委員会とジョイセフそれぞれの覚書について

・寄付金の取り扱い、会計について等

▼2022年2月22日 第2回思い出のランドセルギフト実行委員会

・実行委員会規則確定*資料(2)

▼2022年3月29日 第3回思い出のランドセルギフト実行委員会

・委員長代行の件、覚書検討→承認、ランドセル搬入の件報告有り

▼2022年4月28日 第4回思い出のランドセルギフト実行委員会

・実行委員長代行決定、覚書署名の件、実行委員会名簿の件、奈良から神戸を経てランドセル搬入と募金活動の必要性について提案あり、チラシ作成の必要あり、広報の方法を検討する

▼2022年5月23日 第5回思い出のランドセルギフト実行委員会

・実行委員長交代、チラシ作成の件、PDFで作成されているため編集に時間がかかる

▼2022年6月13日 第6回思い出のランドセルギフト実行委員会

・ランドセル搬入：石巻-横浜 6月6日、神戸-横浜：6月17日 42個の報告、今後の課題等

入金日	入金元	金額	ランドセル入庫月日	入庫数	合計額	残額	備考(寄附元)
2021/11/25	セブソイレブ USD10000 @115.20	¥1,152,000	2022/2/22	14	25,200	1,126,800	城井様
			2022/3/24	99	178,200	948,600	全業石
			2022/6/6	403	725,400	223,200	石巻広域クラブ
			2022/6/17	42	75,600	147,600	神戸ポートクラブ
2022/9/15	神戸ワイズメンズ @10000	¥10,000			0	157,600	
			2022/11/29	60	108,000	49,600	下田クラブ
				10	18,000	31,600	石巻広域クラブ

神戸ポートクラブの取り組み

神戸ポートクラブは、奈良の木の下ランドセル店からご寄付いただいた中古の（といってもとてもきれいな）ランドセル 41 個と友人からご寄付いただいた 1 個、計 42 個を段ボールに詰めて、横浜の貿易倉庫まで搬入してきました。

実際に現地倉庫に赴き、寄贈されたたくさんのランドセルを目のあたりにして、この取組みの素晴らしさを改めて実感しました。活動の輪を広げたいです^_^クラブからは活動の資金として10万円を献金しました。

さらに、ランドセルをご寄付いただいた「木の下ランドセル」のご主人木下修平様が奈良ワイズメンズクラブに入会されることになりました。今後は、奈良クラブとも協力して取り組んでいただくことになるでしょう。



▼2022年3月、東京むかでクラブ城井さんの手配で、全国優良石材店組合様から提供された新品ランドセル100個を、山形家具の広場から横浜港ジョイセフ倉庫まで発送しました。（写真上）



▼2022年5月、震災支援活動が縁で石巻桃生ライオンズクラブから震災支援で

未使用1,800個のランドセル提供の申し出がありました。内800個をライオンズクラブさんの了解を得て、仙台青葉城クラブ加藤重雄ワイズ・真子メネットの協力で東北・モンゴル友好協会を通じてモンゴルの子どもたちに贈呈することになりました。暑い最中、ライオンズクラブ・モンゴル友好協会・ワイズのメンバーが一緒となって解体寸前の給食センターでランドセルの点検作業と運搬のための積み込み作業を行いました。（写真下）コロナ禍の折、モンゴル到着まで紆余曲折がありましたが、8月に加藤メン・メネットとモンゴル友好協会のダライ理事がモンゴル共和国を訪問し、新入学のこども達にランドセルや文房具を手渡し贈呈することができました。（写真下）

石巻広域クラブの取り組み

▼東日本区 DBC 東京むかでクラブさんからの誘いで 2021 年からこのプロジェクトの趣旨に賛同し参加しました。実行委員会の一員として事務局の役割も担っています。石巻地方は東日本大震災最大の被災地であり国内外の多くの方々から支援をいただきました。スタートして2年目に入りますが、このプロジェクトが 2011 年に発生した大震災と大きな繋がりがあるとは当初は思いもよりませんでした。大震災発生時、全国各地から被災地に届けられた善意のランドセルや学用品が大震災発生から 10 年が経って、アフガニスタンやモンゴルの勉学に恵まれない子どもたちから喜ばれたことでした。単なる恩返しとは言えない大きな絆が生まれたような気がしました。

▼2021年11月、最初の大口提供者は塩釜市で大震災支援活動を続けてきたボランティア団体から130個の贈呈を受け、石巻センターに運び点検整理して段ボールに積み込み一時保管しました。



▼2022年6月、石巻センターに集められた一般市民やワイズメンバー、塩釜市のボランティア団体、クラブから提供されたランドセル合わせて403個と事務用品などは、梱包し、レンタカー3tトラックを調達、川上ワイズと東北ヘルプの中澤牧師がボランティアで横浜港まで運搬、ジョイセフ倉庫に搬入することができました。(写真上)



東京むかでクラブの取り組み

東京むかでクラブからは、主に城井・福島両ワイズ及び櫻井メネットが実行委員として活動しています。昨年は、企業等大口の寄付者を募るため、世田谷クラブの朝倉ワイズとともに渉外として城井ワイズにはご尽力いただき、朝倉ワイズのご古巣であるセブン Inc.社より\$10,000USDのご寄付を頂くことができました。

また、福島ワイズは会計担当として、ジョイセフとの覚書を作成し、無事22年4月に締結合意に至りました。櫻井メネットは、ジョイセフの理事としても活動されており、ワイズメンとジョイセフとの架け橋として、継続的にサポートいただきました。

その他のむかでクラブもメンバーも、実行委員会の活動にご理解・ご協力をいただいております。ランドセルプロジェクトの活動が出来ていることに感謝申し上げます。

下田クラブの取り組み

「愛のランドセル海を渡る」 土屋恒夫
(下田ワイズメンズクラブ副会長・会計/静岡YMCA運営委員)

(1) 心と心をつなぐランドセル

ワイズメンズクラブは「頭」と「体」と「心」を用いて奉仕する団体である。

下田クラブが全力で取り組んだ「思い出のランドセルギフト」事業は ①ランドセル ②寄贈者 ③ワイズメンの三つの心が一つになり成功へと繋

がった。

(2) 人間って素晴らしい

ワイズの一員であったからこそ経験出来た今回の慈善活動。その貴重な体験を通して私は多くのことを学んだ。



人間って素晴らしい。人間の本性は良心であり、善意であり、そして温かい気持ちなのだ。ランドセルを綺麗に拭いて届けてくれた人。丁寧に袋や箱に入れて来てくれた人。皆々気持ちが形に表れている。母親に付いてやって来た男子中学生もいた。ランドセルと最後のお別れをするためである。篤志家の皆さんの好意に報いようと、ワイズメンバーも東奔西走。伊豆北川まで足を伸ばす。伊豆新聞・市教育委員会・中学校 PTA にも働きかけ理解と協力を仰いだ。その結果当初の目標の50個を大幅に上回る63個のランドセルが集まった。ランドセルには人と人を繋ぐ不思議な力がある。

(3) 厳しいアフガニスタンの実情

アフガニスタンのことをほとんど知らなかった私。勉強の必要性を感じ、ノンフィクション『もしも学校へ行けたら』というアフガン少女の物語を購入し、一気に読んだ。貧困と劣悪な教育事情に苦しむ彼女達。ランドセルはおろか学用品さえ満足でない。その事実には愕然とした。何という日本との違いなのだろう。プレゼントされた「愛のギフト」を背負い、嬉々として学校へ向かう少女達の姿が目に見えぬ。ランドセルは日本とアフガニスタンの架け橋になるのだ。

(4) 下田クラブに一筋の光明が

このキャンペーンは下田クラブの格好のPRになった。ワイズの認知度が高まれば嬉しい。ランドセル事業はアサギマダラ事業と合わせて下田クラブのメインイベントになるだろう。難航するEMC問題解決の引き金にもなりうる。ワイズ運動への“新しい景色”が見えて来たようだ。

【お礼】 この意義深い企画を紹介して下さい、的確なアドバイスを送ってくれたNGOジョイセフ理事櫻井啓子さん・東京むかでクラブ功労会員櫻

井浩行さんご夫妻のご指導・ご協力に厚くお礼申し上げます。今後とも下田クラブへのお力添えを宜しく願います。ありがとうございました。

ジョイセフとの協働・協力

～ワイズメンズクラブの皆さま～

アフガニスタンの子どもたちの教育のためにランドセルを寄贈くださりありがとうございます。皆さまのご支援はアフガニスタンの女兒の教育の継続のために大きな力となっています。

2021年の政変以来、女性への行動制限が強まっています。政変直後からの中学校、高校の女子への禁止に加え、2022年12月には女性に対し大学も禁止となりました。現在、女の子がアフガニスタン国内で許されている教育は小学校6年間ということになります。

唯一の教育の機会である小学校で学ぶ機会をもたらし、女の子に将来の夢を描く機会をもたらしてくれるのが、日本からのランドセルです。このような時代であるからこそ、私達はこの活動の重要性を再認識して、さらに活発な活動を継続していきたいと思えます。

ワイズメンズクラブの皆さまのご協力に心から感謝し、遠いアフガニスタンの子供たちの夢の為に、一層の努力をしてみたいと思えます。

公益財団法人ジョイセフ

パートナーシップグループ甲斐和歌子

実行委員の紹介

役職	氏名	所属クラブ
委員長	大野 勉	神戸ポート
副委員長	城井 廣邦	東京むかで
委員 (渉外)	朝倉 正昭	東京世田谷
委員 (ジョイセフ)	櫻井 啓子	東京むかで
委員 (広報)	深尾 香子	東京多摩みなみ
委員 (広報)	小原 史奈子	東京たんぼぼ
委員 (広報)	佐藤 茂美	東京
委員 (広報)	菅谷 一江	東京
委員 (広報)	大野 智恵	神戸ポート
委員 (広報)	為我井 輝忠	東京町田スマイリング
事務局長	清水 弘一	石巻広域
書記	川上 直哉	石巻広域
書記	城田 教寛	東京町田スマイリング
会計	福島和州太郎	東京むかで

会計報告

思い出のランドセルギフトプロジェクト				2021-2022年度(2022.2.1~2022.6.30)収支報告書		
				2022年11月14日作成		
A.収入の部>						
No.	団体名・個人	入金先	会計口	予算	実額	備考
入金済みおよび予定)						
1	企業	セブンイレブンアメリカ	ジョイセフ口	1,000,000	1,152,000	
2	クラブ	DBC3クラブ	実行委員会口	300,000	300,000	
3	個人	5名	実行委員会口	139,000	137,000	
		合計		1,439,000	1,589,000	
B.支出の部>						
No.	支出項目	支出先2021-22	会計口	予算	実額	備考
1	海外輸送費	ジョイセフ	ジョイセフ口	-1,080,000	-1,004,400	600個×@1,800の予算 実績として558個送付
2	国内輸送費	第一貨物など	実行委員会口	-250,000	-21,549	4/8第一貨物
3	チラシ作成費	神戸ポートクラブ	実行委員会口	-5,000	-3,510	大野
4	郵便費	切手代など		-15,000		
5	振込手数料	銀行など	実行委員会口	-5,000	-1,442	
6	ボランティア謝儀	東北ヘルプ	実行委員会口	-180,000	-180,000	3万×6か月
7	その他経費			-50,000		
	計			-1,585,000	-1,210,901	
	A-B	<次年度へ繰越>		-146,000	378,099	
		<口座別残高>		2022/6/30	現在	
				ジョイセフ口	147,600	
				実行委員会口	230,499	
					378,099	
		<(参考)6月決算以降の変動>				
			日付			
		(参考)ジョイセフ口	2022/9/15	10,000	10,000	神戸ワイズメンズクラブ寄付
		(参考)ジョイセフ口	2022/10/3	10,000	10,000	下田ワイズメンズクラブ寄付
		(参考)ジョイセフ口	2022/11/30	-90,000	-90,000	下田クラブの50個(11月)
		ジョイセフ口(11月残高)	2022/11/30		77,600	